



Library Liébana

2022年8月度展示内容のお知らせ

【今月のベアトウス写本】

黙示録に描かれた「黙示録の四騎士」の比較(その2) ・ ・先月に引き続き4写本を紹介
いずれも12世紀から13世紀という遅い時期に製作され写本です。

【中世の写本】



Lisbon写本



Berlin写本



彩色写本蒐集家で有名な13世紀フランスのベリー公の時禱書

- ・大時禱書(上)
- ・いともうるわしき時禱書(右)

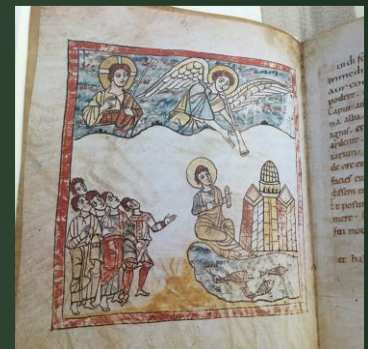


Arroyo写本



Las Huelgas写本

【今月の黙示録写本】



最古の挿絵入り黙示録写本

- ・トリア黙示録写本(800年頃 フランス)



ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。

愛知県豊田市西町5丁目5
VITS豊田タウン B1F
毎週日曜日 10:30~17:30
H.P. (8月は19:00迄)

8月の開館日(予定)
日・水・木・金曜日
(HPで確認下さい)



8月						
日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

5日と26日は午後から
13日(土)~17日(水)はお休み

ベアトゥスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトゥス(ベアト Beato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトゥス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22 写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち19写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書き、製本様式や装丁などをそのまま再現した精巧なものもあります。

1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気味わってください。

今月のベアトゥス写本の挿絵

【黙示録の4騎士】

黙示録の図象において最もダイナミックに表現されるものの一つとされる4騎士。

4つの封印を解くと、白い馬に乗る「征服者」、剣を持ち、赤い馬に乗る「戦争」、天秤を持ち、黒い馬に乗る「飢饉」、青白い馬に乗りハデス(黄泉)を従える「死」が現れ人間に災いをもたらす。中世までは、最初の騎士はキリストを表していると考えられていたが、4人とも災いをもたらすものである。

馬に乗る騎士たちは王冠を被り、皇帝風の服を着ている。また、「死」の騎士は中世の「死の舞踏」を思わせる骸骨となる。また、大きな口を開けたハデスも画面で重要な位置を占めるようになり、司教のみならず、多くの人間たちを飲み込んでいる。弓を持つ騎士は異邦人を表す尖り帽を被っていることがあるが、この騎士をローマ帝国に脅威を与えたパルティア人の軍隊にルーツがあるという説もある。

(「ヨハネの黙示録」の図象学 石原綱成「ヨハネの黙示録」新約聖書翻訳委員会訳 岩波書店 より)

【ベルリン写本】

12世紀にイタリア中部で作られたと思われる、イベリア半島以外で製作された数少ない写本。

他のベアトゥス写本と違い、細いペン画が主体で所々薄い黄色や茶色・赤色で彩色されている。

【リスボン写本】

1189年にポルトガルで制作された写本。その最たる特徴は挿絵の地に使われた蛍光色の黄色とオレンジ色です。

【ラス ウェルガス写本】

1220年というアローヨに次ぐ遅い時期に製作された、縦520 横364というベアトゥス写本で一番大きな写本。

【アローヨ写本】

13世紀前半に製作された大型写本。王家の注文によって製作され、金箔・銀箔が多く使われた豪華な写本。

今月中世彩色写本

【時禱書の世界】

時禱書とは、平信徒たちが祈りを捧げるときに用いる書物のことです。13世紀になると平信徒の間で修道士たちの習慣に倣って、定時に祈りを捧げることが広まりました。聖職者たちが用いていた祈禱書を単純化して編纂した祈禱集が「時禱書」です。豪華な時禱書を所有することは一種のステイタス・シンボルであったのです。(「世界でもっとも美しい装飾写本」 田中久美子より)

ベリー公ジャン(1340-1416)は、大変な写本愛好家で、現存する写本でかつてベリー公の所有にあったと考えられる写本が100冊近く数えられています。

【ベリー候の大時禱書】

1409年に作られた400×300という紙葉の大きさは時禱書としては異例の大きさです。この写本の装飾は、ベリー公の複数の写本からさまざまな要素を引用しています。

【ベリー候の美しき地頭所】

ベリー公が発注しランブール兄弟がすべてを完成させた豪華な時禱書。1405～1409年ごろ作成された。

今月の黙示録写本

【トーリア黙示録写本】

9世紀初期(800年頃)制作された、挿絵入り黙示録写本で残存する一番古い写本。75葉の羊皮紙に74の挿絵が全頁大でカロリング朝様式で描かれています。

テキストはラテン語で書かれていますが、11世紀終わり頃に多数のテキストが書き直されています。

フランス国境に近いドイツのTrier市立図書館所蔵。